平成 27 年度　市川市立図書館評価報告書

平成 28 年 12 月

１．趣旨

この報告書は、「図書館法」（昭和 25 年法律第 118 号）第７条の３、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成 24 年文部科学省告示第 172 号）、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」（平成 21 年教育委員会規則第６号）第１条の２及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」（平成６年教育委員会規則第９号）第２条に基づき、平成 27 年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

２．評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第３章 実施計画編（平成 27 年度～平成 29 年度）の具体的な施策に沿って行った、取り組み内容と目標値等の達成度に基づき、平成 27 度の市川市立図書館の評価を行った。

３．評価の基準について

7 つの施策の方向(市川市立図書館運営基本計画 p.7 参照）について、具体的な取り組み内容と目標値等の達成度を総合してＡ～Ｄの４段階評価を行った。また、この結果より、3 つの柱についての取り組みを総合結果として４段階評価で表した。

実施内容	評価
十分達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。）	A
概ね達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。）	B
やや不十分だった。（実施したが、十分な成果をあげることができなかった。）	C
不十分だった。　（実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。）	D

４．自己評価結果

平成 27 年度は、「市川市立図書館運営基本計画」の 3 つの柱のうち「子どもの成長をサポートする図書館」「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」の 2 つについては、積極的なイベントの実施や関係部署との連携強化等に努めたところ、全ての項目で目標値を超えることができ、A 評価という結果になった。「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、図書館利用登録者数が目標値にわずかに達しなかったため、B 評価となった。総合的には、7 つの施策の方向のうち 6 つが A 評価であったため、27 年度の目標はほぼ達成でき、一定の成果をあげたといえる。

５．平成 27 年度市川市立図書館評価に対する外部有職者からの意見　…別紙１

外部有識者２名（図書館学）から、平成 27 年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価結果は妥当であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

６．e-モニターによるリーディングプラン(平成 27 年度結果)　…別紙２

市川市立図書館運営基本計画の策定時に、e-モニターによる、市民モニターが重要と考える具体的施策についてアンケートを行った。これについて、平成 27 年度の実施結果をまとめた。

平成 27 年度　運営基本計画に基づく図書館評価結果

総合結果

1.　情報拠点として市民の学びを支える図書館

評　価	□A〔十分達成できた〕	■B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

ほとんどの取り組みで目標を達成することができた。新たに開始した国立国会図書館デジタル化資料送信サービスやパスファインダーの提供については、徐々に利用者も増え、良好な反応を得ることができた。また、将来的に全館で IC タグによる蔵書管理を行っていくために、27 年度は行徳図書館の蔵書に IC 貼付し、計画通りに蔵書管理効率化事業を進めることができた。関連施設との連携によるサービスも、例年以上に活発に行われた。課題としては、登録者の拡大があり、図書館がない北部地域の利便性の向上も含めて利用の拡大を進めていく必要がある。

2. 子どもの成長をサポートする図書館

評　価	■A〔十分達成できた〕	□B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

全館で積極的に児童に対してのサービスを展開し、全項目で目標を達成することができ、各イベントでの子どもたちの反応も良好であった。ヤングアダルトサービスや学校図書館支援事業においても、学校との連携を活かし、例年以上に活発な活動を展開することができた。今後は、これまで実施してきた事業の見直しを行いながら、引き続き、関連施設との連携を深め、子どもの読書に関する環境整備に努めていく。

3.　地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評　価	■A〔十分達成できた〕	□B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

地域資料の積極的な収集のほか、地図の電子化や図書館ホームページからの情報発信など、様々な媒体によるサービスの充実に努め、全項目で目標を達成することができた。行政各部署との連携も拡大し、多様な展示や刊行物の販売等、行政の情報拠点としての役割も定着してきている。地域資料の劣化対策と保存が課題であるが、市民が広く活用できるよう、環境整備を進めていく。

27 年度の取り組み内容

一つめの柱　　情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向　1－(1)「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替え	受入れ冊数 50,000冊	受入れ冊数 49,488冊	A
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査等の実施	調査等の実施	
	・障害者向け資料の充実	受入れ点数 200点	受入れ点数 365点	
③効果的な蔵書管理	・行徳図書館の図書へのICタグの貼付と、全館的なICタグによる蔵書管理についての検討	実施	実施	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の計画的な設置	設置	設置（4台）	

実績と評価

蔵書の収集と維持については、全項目でほぼ目標を達成し、一定以上の成果を上げることができた。効率的な蔵書管理のため、行徳図書館の資料約 15 万冊に IC タグを貼付し、全館での IC タグによる管理にむけて準備を進めることができた。また、電子資料については、関連セミナーへの参加や先進自治体の調査等を行い、地域資料の電子化の実現に向け取り組んだ。

課 題

資料の収集については、限られた予算を有効に執行し、的確な資料選定を行っていくとともに、新しい媒体での情報の収集についても、積極的に検討していかなければならない。資料管理面では、IC 機能を全館で活用できるよう、未導入館で IC 化を行うことが課題である。

方向性

引き続き安定した資料費の確保に努め、各図書館の役割やニーズを意識した資料の選定を行っていく。特に地域資料や障害者向け資料については、資料の劣化が進んでいるため、長期的視点をもって様々な状況に対応できる媒体への変換を進めていく。蔵書管理については、効果的な管理・提供・保存が行えるよう、IC 機器導入館での運用について検証し、全館的な IC 化を計画的に進めていく。

施策の方向　1－(2)「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①レファレンスサービスの充実	・レファレンスツールおよび事例集の作成	発行	発行(19回)	A
	・市内外の図書館等との連携の強化 (レファレンス協同データベースへの事例提供)	実施	実施(273点)	
	・レファレンスツールとしてのデータベースの拡充等、市民の学習要求や調査研究に応える環境の整備	実施	実施	
②利用しやすい情報環境の整備	・利便性向上のための、ICT関連機器の更新及び導入計画の策定	機器更新	機器更新 (駅南)	
	・図書館ホームページのお知らせ機能やデータベース等の充実	拡大実施	拡大実施	
③生涯学習機会の拡充	・図書館サービスの PR と、利用の促進	実施	実施	
	・イベントの開催や、地域イベントへの参加協力	実施	実施	

実績と評価

利用者の課題解決のためのツールや糸口として、パスファインダーを作成し配布に努めた。地域に関することや身近なテーマで作成したところ、利用が多く増刷となった。データベースの拡充・環境整備として、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの複写サービスを開始した。紙資料では容易に得られない情報を入手できるため、除々に利用が増えている。また、図書館ホームページのスマートフォンサイトの開設や地域資料のページの充実等を行い、利便性の向上を図った。生涯学習機会の拡充としては、27 年度は大人対象のイベントを増やし、大人向け「本の福袋」や「法律データベースの使い方講座」などを実施した。実施事業に対して利用者からの良好な反応も見られ、これまで以上の成果を上げることができた。

課 題

市民の生涯学習支援のため、様々なレファレンスツールや関連機関との連携による充実したサービスが提供できる環境を整えておかなければならない。また、イベントの実施については、図書館未利用者の来館に繋がるような企画と、積極的な広報活動が課題である。

方向性

引き続き利用しやすいレファレンスツールを検討し、提供していく。これまで実施してきたイベントについて検証し、継続的な図書館利用につながるイベントの開催や、地域イベントへの参加と広報活動を行っていく。

施策の方向　1－(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①関連機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	関連施設との連携による図書館サービスの拡充と利用の拡大 (図書館利用登録者数の拡大)	前年度比増 (130,171人)	124,353人	B
②大学図書館との連携と利用の促進	市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施	実施(163件)	
	市内大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互PRと利用の促進	実施	実施	
	大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施(7名)	
③ボランティアとの連携強化	図書館友の会と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	実施	実施(7回)	
	障害者サービス関連のボランティアと連携した、障害者向け資料の作製と収集	実施	実施(27タイトル)	

実績と評価

特集展示での博物館との連携をはじめ、様々な機関との連携を行い、図書館サービスの幅を広げることができた。大学との連携では、千葉商科大学利用のための紹介状の発行数が過去最大となった。大学図書館見学ツアー等、大学での行事を市立図書館で紹介するなど、継続した連携を行ったことが、利用の増加につながったのではないかと考えられる。ボランティアとの連携では、新たに実施した「図書館バックヤードツアー」の案内を、図書館友の会に協力してもらい、参加者から好評のイベントとなった。登録者の拡大については、7 月より大野公民館図書室で図書館利用券の更新受付を開始し、また、市役所、行徳支所で PR チラシの配布、自動車図書館を展示するイベントを開催して登録の呼びかけなどを行ったが、多目的利用として図書館利用機能を付与した住基カードが、実際の利用に結びつかないまま有効期限切れ等を迎えたことで登録者が減少し、目標値の達成までには至らなかった。

課 題

利用者登録数については、図書館利用機能付住基カードの期限切れや返納が進み、更に登録者が減ることが懸念される。図書館利用券への切替えと、新規利用者の拡大が課題である。また、図書館未設置地域である、市北部利用者の利便性を高めるために、公民館図書室との更なる連携が課題である。

方向性

関連機関との連携により、図書館登録の PR の他、大野公民館図書室での新規登録受付の開始に向け準備を進める。大学やボランティアとは、連絡を密にし、連携の強化に努めていく。

二つめの柱　子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向　2－(1)「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新	（受入れ冊数）9,000冊	（受入れ冊数）10,818冊	A
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施と情報の発信	各種行事の実施	各種行事の実施	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についての案内の実施	実施	実施	
	・大人に対しての子どもについての読書相談等の実施	実施	実施	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中学・高校生のもつ課題解決(学習、生活、進路等)を支援するための資料の提供	実施	実施	
	・図書館と中学・高校生を結びつける行事の実施や刊行物の発行	実施	実施（10回）	

実績と評価

資料の充実については、劣化資料の買い替えや寄贈資料の活用に努めた。中央図書館では、定例開催している読み聞かせの会のほか、季節や行事にあわせて自然博物館や地域防災課等、他施設との共催イベントを積極的に行った。イベント終了後は、子どもたちだけでなく保護者からの質問も多数あり盛況だった。更に、毎回アンケートを実施し、利用者の意見のフィードバックに努めている。地域館においても、「クリスマスおはなし会」や子どもの本の「ふくぶくろ」「一日図書館員」など、本や図書館への興味を引き出す行事を実施した。ブックリストについては、「本のぽけっと 28 号」を発行し、図書館での配布ほか、各小学校を通じて児童全員に配布した結果、掲載した図書の利用が増えた。

子どもの本についての相談は、カウンターやフロアワークの中で実施しており、年間で一万件を越えた。大人に対する子どもの本についての読書相談については、日常的な相談に加え、「読みきかせ講座」と、新企画として「お父さんのためのえほんの会」を開催し好評であった。

ヤングアダルトサービスとしては、中高生の課題解決を支援するための資料提供に努めた。また、YAコーナーの特集展示と連動して「ヤングアダルト通信」を 3 回発行した。そのほかに、「YA手づくり絵本 Club」などの中高生参加型イベントや、本の POP 作り等を学校を通じて募集し、図書館内で作品展示するなど、本に親しめるイベントを実施した。

全項目で目標を達成し、一定の成果を上げることができた。

課 題

乳幼児の親子向けの行事が少ないため、乳幼児の親子が気軽に来館し、絵本を楽しみ、子育て支援ができるような行事を増やすことが課題である。幼児、小学生に対しての親子で楽しめる行事、科学の分野行事などの企画のほか、図書館に来館しにくいヤングアダルト世代への企画も必要である。

方向性

行事については、これまでの見直しを行うとともに、更に本への興味を引き出すような各年齢層にあった行事を関連機関などとも連携しながら、積極的に実施していく。子供の本の読書相談等については、日常業務の中でより細やかに対応していくとともに、子供向け調べ方案内（パスファインダー）を作成し、利用しやすい環境づくりに努めていく。

施策の方向　2－(2)「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・「出張おはなし会」「学級招待」の対象学年の拡大とプログラムの充実	実施	実施	A
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力	参加・協力	参加・協力 （資料依頼件数656件）	
	・学校図書館向け貸出資料の更新	実施	実施	
	・こども館等と連携した児童サービスの拡大	実施	実施（2回）	

実績と評価

出張おはなし会及び学級招待については依頼数が 26 回と増加し、特に小学校では出張おはなし会の利用学年が広がった。依頼校（園）には、後日アンケートを提出してもらい今後の参考としているが、概ね好評である。特に特別支援校では、「生徒がいつもより落ち着いていた」「普段よりしっかりと話がきけていた」等、反響が大きい。一部の幼稚園・小学校では、出張おはなし会を年間スケジュールに組み込むなど、サービスの定着が見られた。また、公共図書館の利用を学ぶ等の校外学習や保育園の園外保育として、図書館を活用してもらった。このほか、平田図書室では、平田保育園で定期的に読み聞かせの会を行なっている。

調べ学習については、学校での各単元における発展授業の取り組みの結果、公立図書館への要求は大きくなっており、資料の貸出が増加した。また、自然博物館等とも連携し、「としょかんに虫がやってきた」など、調べ学習に繋がるようなイベントも実施した。

数年前より、積極的に図書館から学校等に利用を働きかけてきた出張おはなし会の依頼が増えるなど、これまでの積み重ねの成果が見られる一年となった。

課 題

出張おはなし会や学級招待をきっかけに図書館を活用してもらえるよう、図書館職員がまだ出向いていない幼稚園・小学校にも利用を働きかけていく必要がある。

調べ学習については、公共図書館ならではの多様な蔵書を十分に活かした資料提供をしていくことが課題である。また、教科書の改訂時には、新しい事項に対応できる資料を十分に揃えていくことが必要である。

方向性

出張おはなし会については、子どもたちの反応やアンケートを参考にして、更に内容を充実させるとともに、利用の拡大に努める。

学校への資料の貸出については、引き続き資料の更新を図るとともに、効果的な資料提供ができるよう、学校図書館支援センター及び学校司書・司書教諭との連携の強化を図っていく。また、学校との連携を活用し、学校で発生する調べ学習の内容を共有してそれぞれのレファレンスに活かしていく。

こども館等他機関との連携により児童サービスの幅を広げ、普段図書館を利用しない児童にも図書館サービスを提供できるきっかけを作っていく。

三つめの柱　地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向　3－(1)「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理	（蔵書冊数）52,000冊	（蔵書冊数）54,026冊	A
②地域資料の保存	・著作権保護期間満了の資料の電子化	実施	実施	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域資料に関するコンテンツの追加及び更新	実施	実施	

実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集を行い、蔵書冊数の目標値を達成した。中央図書館では、著作権保護期間が満了した資料を電子化し、「市川市全図」「市川市教育要覧図」の2点を新たにWeb-OPACで公開した。ホームページからの情報発信については、市川市に関係する音楽をジャンル別にまとめた「市川の音楽」を発信し、「市川ゆかりの人検索」では6月に亡くなった「梶山俊夫」のページを新たに作成した。また、中央図書館のガラスケースや絵画コーナーを利用し、文学ミュージアムと共催した市川・荷風忌の演目にあわせ、小説『墨東綺譚』(木村荘八挿絵)関連の資料を展示したほか、歴史博物館、東山魁夷記念館の企画展にあわせた資料を展示した。普段は書庫に所蔵している貴重な地域資料に、来館者が熱心に見入っている様子が見受けられた。

課 題

中央図書館では、地域行政資料を永く保存していくための十分なスペースの確保と資料の劣化対策が引き続き課題となっている。また、収集保存している資料について、広く市民が利用できる環境を整備する必要がある。

方向性

全館で地域行政資料の積極的な収集、受入れに努め、引き続き資料の充実を図る。地域館は地域性を考慮した資料を保存し、その他の地域行政資料については中央図書館への保管転換を進める。また、資料の劣化対策として、著作権保護期間満了の資料の電子化等の計画も順次進めていく。

地域行政資料を広く活用できるように、資料の整理を行い、ホームページ等を利用した情報発信を行っていく。

地域情報データベースを随時更新し、コンテンツの充実を目指す。

施策の方向　3－(2)「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施	拡大実施（前年度11回）	拡大実施（20回）	A
	・入手しにくい市の刊行物等の販売	実施	実施	
②行政各課への情報発信	・図書館で利用できるデータベース等、レファレンスツール情報の市の行政各課への発信	実施	実施	

実績と評価

行政各部署と連携した特集展示は、危機管理課、保健医療課、総務課等と実施した。全館で連携を意識して展示を企画したことで、拡大実施の目標を達成できた。保健センターや子育て支援課とは、毎年の連携が定着した。また、中央図書館では、特集展示にあわせ、考古博物館の土器を展示し、展示品の解説を市川考古博物館学芸員が行うイベントを新たに実施した。

中央図書館では、図書館利用のマナー向上をよびかける一言を添えた動物写真をデザインした本の特製しおりを、動植物園の協力を得て作成、配布した。また、市の行政各部署で作成した刊行物の販売や、市民向け冊子類の配布の場所としても中央図書館は定着してきている。

行政各課へ向けた情報発信として、庁内LANを利用し、調査研究に活かせるよう「市川市立図書館調べ方案内」や「新参考業務月報」等を作成し、発信した。

課 題

図書館が行政PRの拠点として位置づけられるよう、全館で行政各部署と連携し、市民のニーズにあわせた情報発信を行うこと、また、図書館から行政各部署へ向けた定期的なPRを行うことが、引き続き課題である。

方向性

全館で行政各部署と連携した展示やイベントなどを企画し、積極的に市民への情報発信を行う。また、図書館の活用法を行政各部署にPRしていく。

平成 27 年度 市川市立図書館評価に対する外部有識者からの意見　（別紙 1）

３つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者（図書館学）２名から意見をいただいた。

１．情報拠点として市民の学びを支える図書館

・いずれの取り組みもほぼ目標どおりに実施されており、B 評価は妥当であると考えられる。利用登録者数の拡大については、住基カードの期限切れなど止むを得ない事情があったことを考慮すれば、A 評価に限りなく近いと受け止められる。IC タグの導入によって蔵書管理などが効率化されることに伴い、対面的なサービスなどに対する人的リソースの比重がさらに増加されていくことができるという意味において、今後の全館実施を期待したい。地域資料や障害者向け資料の維持・拡充やパスファインダーの作成などは、地域における利用者の特性を踏まえて、公立図書館こそが果たすべき役割であることから、引きつづき丁寧な対応を希望したい。

・妥当な評価です。蔵書構成とこれに基づくサービスの内容は、千葉県内ではトップクラス、全国的にも高い水準にあります。ICタグの導入や地域資料の電子化など、新しい図書館サービスの基礎づくりに取り組んでいるところですが、いずれも多額の予算を必要とすることから、将来に向かっての必要な投資が安定的に維持されことを強く望みます。また、利用者に向けて、これまでもレファレンスサービスやイベントで大きな成果を残してきましたが、電子メディアを中心に、着実にサービスを伸長させていますし、市の関連施設、市内の大学図書館、市民ボランティアとの連携も、全国的に高度なレベルにあります。自己評価はBですが、限りなくAに近いというのが実態であると判断します。登録者数の減少が主因のようですが、有効登録者の観点からの吟味も加え、北部地区の住民に対する働きかけが重要な課題となります。

２．子どもの成長をサポートする図書館

・相当に積極的な取り組みが展開されており、A 評価は妥当であると考えられる。図書館が単独で実施するのではなく、利用者（住民）のニーズに基づいて、さまざまな公共的な施設・団体などと連携・協力しながら（あるいは一体的に）サービスを展開することが求められていることを踏まえれば、他施設などとの共催イベントや学校（図書館）への出張お話し会などが増加傾向にあるのは望ましいと思われる。ただし、各施設・団体などが固有に持つ機能を尊重し合うことは必要であるから、例えば「調べ学習」の支援においては「学校（図書館）」と「公立図書館」はどのように役割分担をするのか（それぞれだからこそすべきことは何か）といった点を常に意識しながら、情報共有を図りつつ、さらなる取り組みが進むことを期待したい。

・妥当な評価です。子どもへのサービスは全国的に高い水準にあり、特に学校図書館への支援は、全市的な事業の中核的な役割を担っています。乳幼児やヤングアダルトへのサービス展開は、今後も重要な課題となりますが、絵本プレゼント運動ではないブックスタート事業を、保健センターや子育て支援課とのさらなる協力で実施するとか、図書館とは疎遠になりがちな中・高校生に、自主的な活動の場を提供することで読書との繋がりを確保するとか、住民の生涯にわたる切れ目のないサービスの展開を期待します。

３．地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

・目標を超える取り組みがなされており、A 評価は妥当であると考えられる。「市川市」の公立図書館として果たすべき役割（他の公的施設では果たせない役割）のひとつは地域の歴史・文化・行政などをめぐる資料・情報の整備・提供であることに基づけば、地域行政資料の収集、資料の電子化や特設ウェブページの作成、他施設・行政各部署と連動した展示などについて、積極的に展開されていることは高く評価できると思われる。今後は、利用者（住民）がどのようなニーズを有しているかをさらに把握しつつ、PR などを含めて、積極的な利用がなされるような工夫をさらに期待したい。

・妥当な評価です。地域に関する過去と現在の記録情報を全体的に取り扱い、これに関連して行政と住民を結節させる場として、全国的にも優れた地域資料の収集と保存、さらに発信の試みがなされており、行政各部署との連携もたいへんよくできています。書店やインターネットでは入手しづらい資料も含めた地域の情報について、広く収集し蓄積して現在と未来の住民に提供するためにも、関係機関との連携や住民との協働を推進していく必要があります。特に行政資料の図書館への集約化と保存は、行政支援の観点からも必要であり、全庁的な取り組みが望まれます。

総 評

・丁寧かつ詳細に客観的な評価が実施されており、自己評価の結果は妥当であると考えられる。公立図書館における自己評価としては充分な水準に達していると思われるが、あえて欲を言うのであれば、今後においては、未利用者を含めた利用者（地域）のニーズをさらに把握していくこと、および図書館の取り組みが利用者にどのような効果を及ぼしたか（いわゆるアウトカム評価）を可能な範囲で把握していくことが検討されるのを期待したい。アンケート調査などを実施することも考えられるが、例えば、日常業務や各イベントなどにおいて利用者の「声」を集めていく、といったことでもニーズ分析や評価の素材とすることが可能であろう。

・自己評価は妥当で、一部にB評価の項目もありましたが、一般的な公立図書館の尺度からすれば、すべてA評価でも問題ないと考えます。市川市の図書館はすでに高いレベルに到達しているため、現状を維持するだけでも相当の努力が必要であり、数量的な尺度をもって、数値の増減だけで評価することは適切ではありません。これまでのような活動の実績目標値に加え、利用者満足度や施策の目的達成度などの面から、運営内容の実態がよりよく反映できるような評価に向け、たいへん難しい作業とはなりますが、少しばかり図書館評価の手直しをしてはいかがかと考えます。

e-モニターによるリーディングプラン

市川市立図書館運営基本計画の策定時に、市民の声を広く集め本市図書館の運営に反映していくため、ｅ−モニターによるアンケートを実施し、市民モニターが重要と考える施策について尋ねました。

7 つの施策の方向の中で、「特に重要」という回答が多かった具体的施策を、図書館運営を俯瞰的に把握することができる主要施策として位置づけ、「ｅ−モニターによるリーディングプラン」としました。

これら施策について、平成２７年度の実施結果を報告します。

市民モニターが重要として選んだ具体的施策

１つめの柱　情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向 1−(1)　様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持
〇具体的施策　利用に応じた様々な形態の資料の充実

施策の方向 1−(2)　図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実
〇具体的施策　利用しやすい情報環境の整備

施策の方向 1−(3)　関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供
〇具体的施策　関連施設との連携による、各地域における図書館サービスの充実

２つめの柱　子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向 2−(1)　発達に応じた豊かな読書のための環境整備
〇具体的施策　行事の実施と情報の発信

施策の方向 2−(2)　公共図書館と学校等との連携の強化
〇具体的施策　調べ学習及び読書環境向上のためのサポート

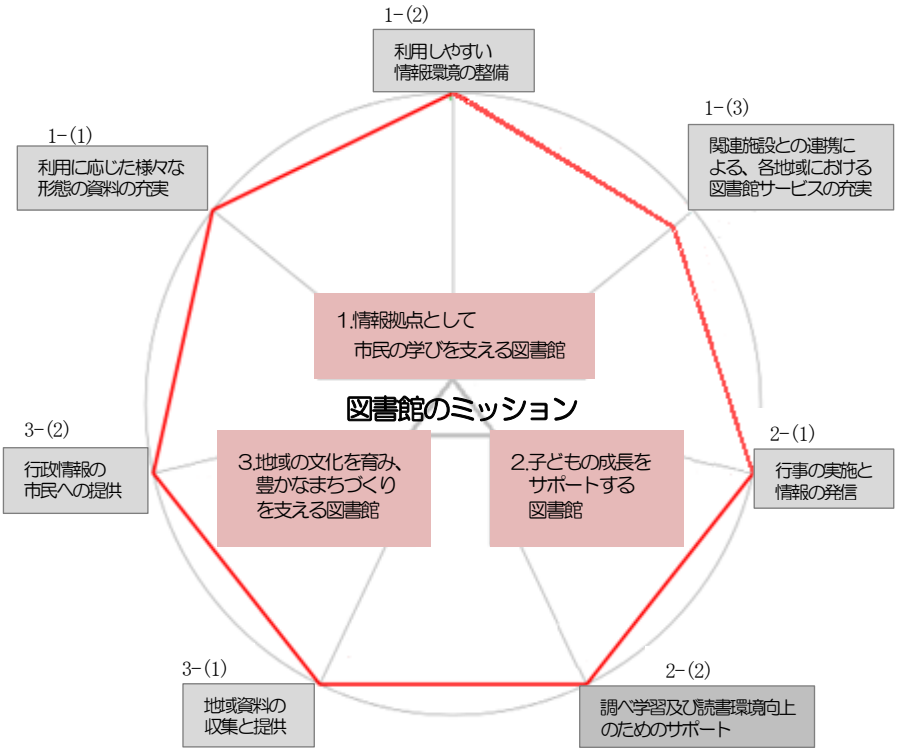
３つめの柱　地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向 3−(1)　市川市の歴史・文化の保存と継承
〇具体的施策　地域資料の収集と提供

施策の方向 3−(2)　行政の情報拠点としての役割
〇具体的施策　行政情報の市民への提供

＜リーディングプラン　平成 27 年度結果＞

市民モニターが重要として選んだ 7 つ具体的施策のうち、6 つについては目標を達成することができました（取り組みの内容については、p.1〜5 参照）。

施策の方向１-(3)　の「関連施設との連携による、各地域における図書館サービスの充実」については、具体的な目標として、図書館利用登録者の拡大を掲げていましたが、わずかに目標値に届きませんでした。今後も関連施設との連携を強化し、市内各地域で図書館サービスが利用できるよう努めていきます。

今回、目標が達成できた 6 つの具体的施策についても、更に拡大実施を目指しサービスの充実を図ってまいります。